

平成 24 年度能美市地域福祉活動計画 第 6 回アクションプラン推進協議会 (会議録)

日 時：平成 25 年 2 月 14 日 (木) 午後 7 時～午後 8 時 (午後 6 時から 7 時 テレビ小松収録)

会 場：辰口健康福祉センター ホール

参加者：高塚 亮三、橋本八重子 (地域福祉人づくり委員会)

西川 方敏、武田 裕幸 (私たちのボランティアセンターづくり委員会)

井上 徹、吉田 良 (地域福祉ネットワークづくり委員会)

喜多 泉、清水奈津美 (地域福祉支えあいのしくみづくり委員会)

田中 邦一、村上 洋子 (評価委員会正副委員長)

社協…宮本会長、斉藤事務局長、新川次長、海道、谷、高畑、小西 (記録)

欠 席：宮田 明 (地域福祉人づくり委員会)

(敬称略・順不同)

1 開会の挨拶

高塚会長：いよいよ大詰めとなってきました。今日が最後の委員会です。早速、協議に入っていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

2 協議

地域福祉活動計画第 1 次計画の全体報告について

3 月 1 0 日 (日) 午後 2 時 3 0 分～3 時の日程を確認 (レジュメ裏面参照)

事務局：第 1 次計画の全体報告ということで、前回の話し合いの結果を確認しながら、再度、詳細についてご検討願いたい。

14 : 30～14 : 35 第 1 次計画の全体概要

本計画の目的や経過をきちんと伝えることで、それぞれの 4 委員会の取り組み内容に対する理解が深まる。よって、事務局側でわかりやすく説明する。

14 : 35～14 : 55 各委員会の委員長より 5 分ずつ報告して頂く。前回資料の「1 次から 2 次への検討項目表」に従い、各委員会の強調したいところやエッセンスを抜き出して報告して頂く。5 分しかないので、会場の舞台上に 4 委員長が並び、一人ずつ前に出て報告。時間のロスがないよう進めていく。発表の視点は、2 次に繋ぐ課題や市民が各々の立場・組織において協力し合うことを呼びかける言い方をお願いしたい。

14 : 55～15 : 00 前回詰めていなかったが、各委員長から報告して頂いた後に 2 次に繋げることを A P 推進協議会の高塚会長から話して頂くことで如何か。検討して頂きたい。

喜多理事：最初に事務局から、概要として各委員会の計画や経過を説明されるのであるが、最後の 2 次に繋げることの説明を、また、高塚会長にお願いしたほうがよろしいのか？

高塚会長：5 分もいらぬのではないかと思います。

喜多理事：報告が続くので、聞く事に飽きられても困るので、さらっとしたほうがよいのではないかと。

事務局：高塚会長にお話しを頂かず、事務局で最後さらっと閉めたほうがよいということか？

西川副会長：4 委員会の報告を受けた後、違う観点からの説明ということであれば、評価委員長に言っ

て頂くということも選択肢の一つだと思う。その方が、わかりやすいかもしれないと思う。

喜多理事：第三者的な意見で良いと思う。

田中評価委員長：4委員会の総まとめならば高塚会長がよろしいと思う。でも反対に、市民レベルの目線で、批判的と捉えられるようなことを言ってもよろしいのであろうか。

事務局：批判的というより、やり残したところを2次に繋げていくというようなことや、この会議後に行う評価委員会での話を少し紹介するような形でもよろしいのではないかと思う。

田中評価委員長：了解した。 ⇒ 全員了承

高塚会長：パワーポイントは使うのか。

事務局：どうしてもということであれば使用できるが、時間も5分しかなく、手元資料もあることなので、使用しない方向で考えて頂くことで如何か。また、3月10日の一日を通して、アンケートを書いて頂くこととしてよろしいか？ ⇒ 全員了承

また、閉会にあたっては、田中評価委員長の言葉で終わりにする。 ⇒ 全員了承

3 各アクションプラン委員会より

1次計画のまとめシートより、特に伝えたいことの確認

- ・地域福祉人づくり委員会（高塚委員長）
- ・地域福祉ネットワークづくり委員会（井上委員長）
- ・地域福祉支えあいのしくみづくり委員会（喜多委員長）
- ・私たちのボランティアセンターづくり委員会（西川委員長）

事務局：資料の各委員会のまとめシートは、昨年9月に提出して頂いたときに、それぞれしっかりとご報告を頂いているので、今回は、最後の報告会の時に伝えたい、大切なことを確認願う。

高塚会長：特に言いたいことがあれば発言してほしい。

田中評価委員長：地域福祉人づくり委員会のまとめの中で、「交流の場」と「ふれあい福祉事業」、「ふれあい事業」、「ふれあい行事」といろいろな言い方があるが、中身は同じだと思う。言い回しを統一したほうがわかりやすいと思うがどうか。一般市民からは、わかりにくいし、誤解を受けやすいと思う。

西川副会長：同じようなことを指しているのであれば統一したほうがいいし、違うものであれば適切な言葉にした方がいい。

事務局：「交流の場」は目標とする指標に上げられており、「ふれあい福祉運動会」、「ふれあい踊りの夕べ」、「ボランティアのつどい」などの市民のふれあいを目的とした事業の総称であることを明記しており、それは変更できない。しかし、文中の「ふれあい福祉事業」については、過去の「春まちばかばかプロジェクト」の人づくり委員会の分科会報告「ふれあいもちつき」や「ふれあいサンバ」等に社協のふれあい事業を含めた意味で使用し記載してきたものだが、人づくり委員会においても、まさに今年度、一般市民にもっと理解してもらうには、「ふれあ

い行事」に統一したほうがよいと議論したところである。このような経緯があり、表記がまちまちとなっている。

田中評価委員長：「ふれあい行事」に統一したらどうか。

高塚会長：最初の言葉は計画を立てた時の言葉で、そのように議論してきたものである。しかし、どういう風にすれば市民に伝わっていくかが問題だということから「ふれあい行事」に統一することを議論したことも、5年間の成果として書き加え、統一した表記にしていく。

井上理事：次に、質問というより、先日の地域福祉ネットワークづくり委員会で戸惑ったことがある。以前の委員会の「2次計画につなぐこと」の話し合いの中では、出て来なかった「ゴミだしや買い物支援等日常生活支援」の文言や、3つの小委員会の設置についてのことが、2次計画の取り組みとして載っている。それはそれで2次計画としてのこととして、割り切ればいいことなのだが…、どうしても委員会委員に戸惑いがある。

高塚会長：市の進めている市地域福祉計画との整合性ということから本当は言わないといけないと思う。

西川副会長：2次計画でやろうしている取り組みが、全て1次計画からつなぐ項目ばかりである必要はないと思う。1次計画の実施者が何を2次に継続して実施してほしいかを伝えているのであって、引き継ぎしたいことを、強調して挙げておけば良いのではないかと思う。市地域福祉計画のめざす方向と連携を取って、進まなくてはならないと思う。

高塚会長：地域福祉活動計画の1次の課題や成果と、市地域福祉計画の2次を合わせて、2次の地域福祉活動計画に繋がっていく。

西川副会長：「生活支援」について、委員会の意見がなければそれはそれで良いのではないか。委員会で話し合っただけで2次に渡したい（引き継ぎたい）という意見が出てきたのであれば、報告として述べる必要があるが、特に委員会で出ていないことを、今度のまとめとして報告する必要はないと思う。

高塚会長：「生活支援」はどこに出ているのか。

西川副会長：2次の策定計画ワーキングで出てきている。

井上理事：地域福祉ネットワークづくり委員会で、2次につなぐこととして「生活支援」についても、もう少し具体的なことが出てきていれば良かったのだが・・・

高塚会長：言葉が変わっているのであって、やっていることが変わっているわけではない。「生活支援」で例えば、粗大ごみの問題など、町会ごとに徐々に取り組み始められている。それを明確に「生活支援」という言葉を使っていこうと市地域福祉計画に出てきた。地域福祉活動計画の実践の中で既にやっていることだが、2次の市地域福祉計画では、これまでやってきたことの延長線として具体的な言葉で表している。決して地域福祉ネットワークづくり委員会で話し合っていないことではないと思う。ここで取り上げたということは、明確に表し、確認しようという呼びかけになると思う。これで理解して頂けたか。

井上理事：地域福祉ネットワークづくり委員会では、2次につなぐことの話し合いの中に出ていなかったということに戸惑っただけであって、今の話により、割り切ることとする。

高塚会長：次に地域福祉支えあいのしくみづくり委員会より願います。

喜多理事：2次計画につなぐことの記事の中の「絵本喫茶」を「絵本カフェ」に訂正してほしい。あと、2次計画につなぐことの2段目「ファミサポがただの・・・」という欄に付け加えて欲しいことが出てきた。親子サロンでの話し合いで、「若いママがインターネットから情報を収集しているという今の世の中にあわせて、インターネット上で情報発信できないか」ということが出てきた。2次計画ではホームページやブログを活用して親子サロンやファミリー・サポート・センターを広く発信していきたいということをつけ加えたい。

田中評価委員長：地域福祉支えあいのしくみづくり委員会の目標についてだが、「1.ファミリー・サポート・センター利用件数」の目標とする指標が50件に対して、その達成結果が3,178件となっているのは目標値が小さかったのか、集約の仕方が違うのか。実際は努力した結果なのか？

喜多理事：目標は5年前に「0」の状態からスタートしたファミリー・サポート・センターであり、その時に立てた目標の数字を、1年目で越えてしまった。目標設定が低すぎたといわれればそうなのだが、そのことで、利用のしくみが求められていたことが良くわかった。

田中評価委員長：目標の立て方が現実的ではなかったということか。

喜多理事：状況が把握できていなかったからだと思う。最初は「0」からのスタートで、何もわからない状況であった。

西川副会長：需要がどれくらいなのか、とらえ切れていなかったということだと推察する。

田中評価委員長：理解できた。

宮本社協会長：最初の50件は年間目標の数字であり、達成結果の数字は累計数、指標達成のコメントでは年間の延べ件数で表しているの、分かりにくい。指標については、同じ基準(単位)で分かりやすく表したらよいと思う。

橋本理事：確かに、この数字の表し方が同じ基準・視点ではないので、このままだと理解しづらい。

喜多理事：年間700件という達成の数字が表されているが、ファミリー・サポート・センターを利用する件数が多くなるのが良いこととは限らず、件数で評価できるものではないと思う。協力登録会員を増やすことは目標にできるが、ファミリー・サポート・センターを利用せざるを得ない状況に置かれている人が沢山いることが何の評価になるのか、ということもある。

高塚会長：評価といった場合、良いこと悪いことという尺度ではなく、そう評価しないでおこうということが当初からの話し合いであった。現状を把握するために分かりやすいようならば数字は使って良いと考えてきた。

宮本社協会長：喜多理事が言われるように「件数で評価できる問題ではない」ということを書いておけばよいのではないか。数字が一人歩きしないように、注釈を加え、2次に引き継げば良いと思う。

西川副会長：累計数を書かないで各年度ごとの実績を書いたほうがよいのではないかと思う。

高塚会長：それでは次に、私たちのボランティアセンターづくり委員会より確認願いたい。

西川副会長：特に伝えたいことはなく、すべて網羅して記入したと思っている。5年間の最初はボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会規約作りなどの制度的なことを進め、後半はボランティア・コミュニティ活動支援センターに人を集めるには、また、集う場にするにはどうしたら良いか、ということに関心が移った。資料の言葉づかいを改めて見てみると例えば、「マッチング」という言葉が記載してあるが、分かってもらえるかどうか、より理解しやすい言葉で表したほうがよいのかとも思う。

高塚会長：いくつか議論があったが、最終的にはいつ市民に出る資料なのか。

事務局：3月10日(日)最終報告の時の配布資料になるので、各委員会で訂正して頂き、2月末までに提出して頂きたい。

高塚会長：これから委員会が開かれるところがまだあるのか。

事務局：私たちのボランティアセンターづくり委員会が2月20日(水)にあるのみで、他の委員会においては、委員長と副委員長、担当職員で相談し、確認して頂きたい。

4 今後の日程（レジュメ 3Pの資料を基に事務局より説明）

高塚会長：日程を確認し、これでご意見がなければ、時間通りAP推進協議会を終了させて頂く。

5 閉会の挨拶（西川副会長）

西川副会長：この後、評価委員会が行われますが、AP推進協議会としては活動計画の1次が終わるということで、皆さん本当にお疲れ様でした。どうもありがとうございました。でも、まだ2次計画策定ワーキング部会(3/6(水)午後7:30～)が残っていますのでよろしくお願いします。

(引き続き、評価委員会開催)

②地域福祉活動計画の全体報告

3月10日（日）の日程

11:30～13:15	人づくり委員会分科会
13:15～13:25	能美たすかったわ～大賞表彰式
13:25～13:30	（プルタブからの福祉用具購入）車椅子贈呈式
13:30～14:30	地域福祉委員会のつどい
14:30～15:00	第1次地域福祉活動計画の報告

◆第1次計画報告の詳細日程・・・確認し、決定したこと

14:30～14:35	第1次計画の全体概要（事務局） 第1時計画の全体概要の目的や経過をきちんと伝える。 それぞれの委員会が何を中心にやってきたか概要を説明する。
14:35～14:40	「地域福祉人づくり委員会」
14:40～14:45	「地域福祉NWづくり委員会」
14:45～14:50	「地域福祉支えあいのしくみづくり委員会」
14:50～14:55	「私たちのボランティアセンターづくり委員会」 各委員長が前に4人並び、中央マイクに一人ずつ立ち、報告する。 2次につなぐ課題や、これを伝えたいと思うこと。 市民が、おのおのの立場や組織において協力しあうという観点
14:55～15:00	第2次計画に関して（田中評価委員長） 批判的というより、やり残したところを2次に繋げていくことや 評価委員会での話を少し紹介 市民側の目線で

平成24年度能美市地域福祉活動計画 第2回評価委員会（会議録）

日 時：平成25年2月14日（木）午後8時～9時15分

会 場：辰口健康福祉センター

参加者：田中 邦一、村上 洋子（評価委員会正副委員長）

高塚 亮三、橋本八重子（地域福祉人づくり委員会）

西川 方敏、武田 裕幸（私たちのボランティアセンターづくり委員会）

井上 徹、吉田 良（地域福祉ネットワークづくり委員会）

喜多 泉、清水奈津美（地域福祉支えあいのしくみづくり委員会）

社協…宮本会長、斉藤事務局長、新川次長、海道、谷、高畑、小西（記録）

欠 席：宮田 明（地域福祉人づくり委員会）

（敬称略・順不同）

1 開会の挨拶

田中評価委員長：1次のまとめの評価委員会です。内容の表記は市民が見ても分かりやすいようにして欲しいと思う。それではまず、地域福祉人づくり委員会からお願いします。

2 各アクションプラン委員会よりの評価

PERT図 参照

（事務局説明・・・各委員会から自己評価として作成したものを提出。昨年度分(昨年度も同様の評価資料を使用した)を基に、本年度の取り組みを含めて第1次5年間の動きを見て、それぞれの取り組みがどれくらい進んだかを 太い矢印 → で加筆してもらったもの。）

高塚委員：人づくり委員会は「福祉意識の向上」「自助・共助の支援」「人材育成」がテーマであり、この5年間力を注いできた。その中で、5年間の区切りと捉えての進捗状況とするならば「生きがいくくり」では、「ふれあい事業」ということを、明確に、何をしていくか(人の心に寄り添える人をつくり・増やしていくための事業であることを)はっきりさせてきた。「認知症の理解」もまだまだ進んでいない点もあるが、ひとつの区切りとして達成かなと思う。「福祉教育の推進」は人づくり委員会としてあるべき方向性を示すことが達成できたのではないかと思う。「自助・共助の支援」の「世代間交流」「企業の社会貢献を支援」は手付かずの部分もかなりあり、2次での課題だと思う。

田中評価委員長：地域福祉人づくり委員会の報告が終わりましたが、評価に疑問があるとか、これだけやっているのに評価が低いのではないかなど、何かあればご意見を願いたい。ご意見がなければ、次に地域福祉ネットワークづくり委員会より願います。

井上委員：「いきいきサロン連絡会設立」とあるが、全く→が引けない。1年目に設立したが、その時の話し合いにおいて、連絡会を作って会合ばかり開いていても意味がなく、実際に研修会を行うことのほうがよいのではないかと結論であったので、継続できなかった。

高塚委員：いきいきサロン連絡会は1年だけだったのか。

井上委員：そうである。

高塚委員：研修会をしたらどうかということだが、研修会の中身がどのようなものなのか、関係者の相互交流のような内容のほうがよいと思う。

井上委員：研修会において、意見交換を行う。連絡会だと固定した何人かの人が集まるだけで、広がらないように思える。研修会を開催して、多くの方に参加してもらい意見を交換し合うことを進めたい。

田中評価委員長：まとめシートの目標達成のコメントのところを見ると、地域福祉委員会の未設置の町会にはそれなりの理由があり、これ以上、数字が伸びないと捉えているが、動き自体を見ると、これは→を追加し、目標完了としてはどうか。

井上委員：これはまだ働きかけをすれば伸びるということで、2段階→としている。

宮本社協会長：地域ではいきいきサロンが大変に活発にされているが、いきいきサロン全体の動きと捉えて3段階→評価としてはどうか。また、見守り体制の整備も充実してきているので、3段階→評価としてよろしいかと思う。

田中評価委員長：他に何かご意見、質問はないか。なければ、次に地域福祉支えあいのしくみづくり委員会を願う。

喜多委員：このPERT図は自分たちの委員会の取り組みと違うことも書かれているが、これは地域福祉活動計画の取り組みの体系図の項目を引用してあるもので、上から2つの項目については全くやっていない。次の「障害者へのサービス利用支援」は障害者とはいえないが、障害を持つ子どもたちのことを理解していこうと、講習会や学習会などの話し合いの場を設けてきた。「家庭の心配ごと相談窓口の充実」には当てはまらないが、親子サロンやファミリー・サポート・センターの活動の中で、心配ごとなどの相談を受けたり、一緒に考えアイデアを出したりということがある。「年代別の情報交換の場づくり」は、親子サロンで子どもを持つ親同士の交流や情報交換、おばあちゃん世代との関わりや情報交換もできている。「要支援者のニーズ調査」では、依頼会員の実態が把握されている。「ニーズに応じたサービスの検討の場づくり」は、親子サロンやファミリー・サポート・センターの運営委員会で検討しながら進めている。また、養成講座を行い協力会員やスタッフを増やすことを目標に掲げてきたが、5年間にできなかったもので、2次計画に入れてあるので、必ず開催したいと思う。

高塚委員：地域福祉活動計画の中の取り組みの体系図が項目だが、地域福祉支えあいのしくみづくり委員会は子育て分野に限ってやってきたので、子育て分野の視点で見ての評価をすればよい。

喜多委員：それでは、PERT図の上から2つの項目を含め、→を少し加え変更をする。

田中評価委員長：次に、私たちのボランティアセンターづくり委員会より、願います。

西川委員：「気軽な相談窓口」はポスターを作成して、市内の各所に貼り出した。「ボランティア仲間の気楽に立寄れる場づくり」は既にボランティア・コミュニティ活動支援センターが存在しているが、より集いの場となるよう「喫茶あい・テラス」を試験的に開設した。ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会の規約も作成したが、今後、NPO法人など色々な団体組織などとの絡みをどうしていくかが課題となる。

3 全体評価

田中評価委員長：各委員には、5年間にわたり、地道に計画遂行の活動を続けてこられたことに感謝を申し上げる。福祉というのは、自助・共助・公助の境界線が分かりにくいところがあり、手を差し伸べ

れない微妙なところもある。少子高齢・核家族等の現状を考えてみても自ずと、今後ますます福祉が重要となる。2次計画はそれを踏まえて策定を進め、時代に対応した地域福祉の活動を行ってほしい。

4 閉会の挨拶

村上評価副委員長：お疲れ様でした。1次計画の漠然とした目標の中から、このような文字としてまとめられた努力を評価したい。これをよい形で報告し、2次計画はさらに安心して暮らせるよう福祉の取り組みを進めてほしい。